



情報工学実験第2レポート
(ソフトウェア実験：課題5)
を提出する際に気をつけること

全体を通して

- ▶ レポートを読むだけで
「実験中に何をどのように行いどのような結果が得られたか」
を理解できるようにすること
→ この部分が圧倒的に足りません
- ▶ 文章でわかりやすく説明することが難しい場合には、
図表を適宜使うこと
- ▶ 参考にした書籍・Webページ等は参考文献として
レポートの最後にまとめること
- ▶ グループでやったことと**自分がやったこと**を明確にすること、
特に、後者について重点的に説明すること
- ▶ 必ずしも分量がすべてではありませんが、2～3ページしかないレポートは
総じて「なにか」が足りていません

仕様書について

- ▶ システム構成がよくわからない
- ▶ 通信プロトコルがきちんと記述されていない
- ▶ アプリケーションの利用方法がわからない（具体例を示す）
- ▶ 未解決のバグについて、報告のみで解決するための方策に関するアイデアがない

作成した仕様書を他のグループに渡したら、
自分たちが作成したのと同じ挙動をするアプリケーションを
作成できますか？

例) AグループのJさんが作ったモジュールZと、
BグループのKさんが作ったモジュールZを入れ替えても
きちんと動作しますか？

個人ごとのレポートについて

- ▶ 実験中に「自分がやったこと」をわかりやすくまとめられていない
 - ▶ 「仕様書を参考にして」ではだめ。仕様書はまったく別の提出物。
- ▶ 実験を進めるにあたって工夫したことがあれば書くこと
- ▶ 実験で得られた結果（具体例）が記述されていない
 - ▶ たとえば、アプリケーション全体における自分のプログラムの実行結果など
 - ▶ 「うまくいくことを確認した」「バグが発生した」などの単純な報告ではだめ
- ▶ 考察が足りない
 - ▶ 考察は感想ではない
 - ▶ うまくいかなかったこと、足りなかったことがあるのであれば、どうすれば改善できると思うのかを自分なりに考えて書くこと